

情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ」の 編集にあたって

安彦 智史^{1,a)}

1. 第6巻第4号の刊行にあたって

情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ」(IPSJ Transactions on Computers and Education, TCE)は2014年度に創刊し、第6巻第4号で通算19号の刊行となります。こうして本号を刊行できましたのも、ご投稿いただきました著者の皆様と、丁寧な査読者の皆様ほか、ご尽力いただきました関係者の皆様のおかげと深く感謝しております。本トランザクションの母体は、コンピュータと教育研究会(Computers in Education, CE)と教育学習支援情報システム研究会(Collaboration and Learning Environment, CLE)であり、情報教育から教育へのコンピュータ利用に関する研究まで幅広いテーマを扱っております。本誌の特徴として、読者にとって有益な教育とコンピュータに関する価値ある知見を積極的に紹介いただくために、条件付き採録の照会回数に制限を設けていない点や教育現場における実践事例を紹介いただくために「実践論文」や「ショートペーパー」といったカテゴリーが用意されている点があげられます。

2020年初頭から世界中に蔓延した新型コロナウイルスは初等中等教育、高等教育にかかわらず大きな影響を与えています。対面授業が制限され、多くの教育機関でオンライン授業等の家庭内学習を余儀なくされました。Afterコロナで加速するといわれているデジタル・トランスフォーメーション(DX)にも注目が集まり、ICTを利活用した情報教育、教育の情報化は大きな変革の時期を迎えています。

このようなときこそ教育現場の参考となるような実践事例を本誌「教育とコンピュータ」でご紹介いただけますと幸いです。教育とコンピュータに関する知見を広く共有する場として、本トランザクションが貢献できることを願ってやみません。今後もTCEへの積極的な投稿ならびに編集作業へのご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2. 本号掲載記事の紹介

本号では、招待論文1編を含む4編の記事を掲載しています。

- 「大学教育におけるDXの実現に向けて」では、教員とICT基盤が両輪となって推進する包括的なDX(デジタル・トランスフォーメーション)のフレームワークを提案し、そのフレームワークを用いて描いた大学教育におけるDXの展望を示しています。
- 「一般情報教育におけるプログラミングのスキルの習得度とプログラミングの考え方の理解度の関係」では、プログラミングの基本的な概念とプログラミングスキルの習得度の関連性について、一般情報教育におけるプログラミングの授業を対象とした評価問題を用いて調査を行い、その結果からスキル習得度と考え方の相関関係について考察しています。
- 「観察支援システムFishWatchrを用いた「自律型対話プログラム」の実践方法の改善と評価」では、大学生を対象にした話し合い能力向上のためのトレーニングプログラムである「自律型対話プログラム」におけるディスカッション練習とリフレクション活動に観察支援システムFishWatchrを導入する方法を提案し、定性的分析により、その長所について確認しています。
- 「幼稚園児のビスケットプログラムにおける繰返し続けるプログラムの理解の分析」では、「幼稚園児が変化を繰返し続けるプログラムを理解し、それを作ることができるか」をリサーチクエスションとして、幼稚園児に対して実施したビスケットプログラムのレッスンで園児が作ったプログラムを分析しており、園児のプログラム理解度とその難易度に関する知見を提示しています。

¹ 仁愛大学
Jin-ai University, Fukui 915-8586, Japan
a) abiko@jindai.ac.jp